

オンライン シンポジウム

令和3年度「生涯活躍のまち」シンポジウム

～モデル自治体の実践事例を通じた「生涯活躍のまち」の
具体化モデル（積み木アプローチ）のご案内～

2022年3月11日（金） 15:00～17:00

当日の質問方法

- シンポジウム後半の座談会において、可能な限り質疑応答を行う予定です。
- ZoomのQ & A機能から投稿ください。



※時間の関係上、全ての質問に答えることができない可能性がありますので、予めご了承ください。

開会挨拶

内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局

原田参事官

趣旨説明

「生涯活躍のまち」とは。

急速な少子高齢化とともに、特に生産年齢人口の減少が進行する中、女性、高齢者、障がいのある方、ひきこもりの方など、一人ひとりの個性と多様性が尊重され、それぞれの希望に応じて役割や生きがいを持って、できる限り長く活躍できる地域コミュニティが実現できれば、地方における人口減少問題の改善、地域の消費需要の喚起や雇用の維持・創出、多世代との協働を通じた地域の活性化などの様々な効果が期待されます。

「生涯活躍のまち」は、**あらゆる人々が、移住・定住、関係人口を問わず「居場所」と「役割」をもって「つながり」、生涯を通じて健康でアクティブに活躍することで活性化するコミュニティづくりを目指す横断的な施策**です。



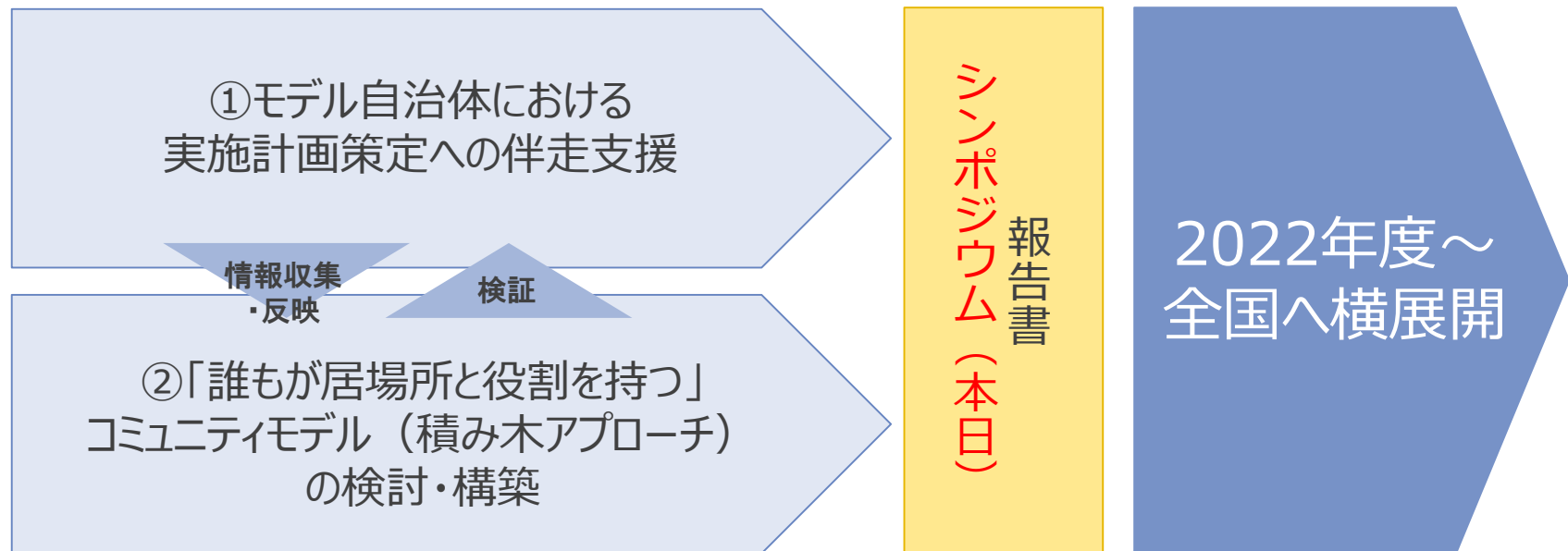
安定的な事業運営基盤の確立

- 安定的・継続的にコミュニティの運営が図られるよう、これまでの調査研究事業の成果等を踏まえつつ、地域再生推進法人を含む「生涯活躍のまち」に関する事業運営を担う中核的な法人を支援

今年度の調査事業の概要

生涯活躍のまちがめざす「誰もが居場所と役割を持つ」コミュニティをつくるためには、どのような人が居場所と役割を求めているのか、それらの方が参加する事業をつくるためにはどうすればよいか、またその取組をどのように継続するか、といったことが問題となっています。

そのため本事業では、**モデル地方公共団体への伴走支援を通して、実施計画策定や事業構築の手法等について情報収集するとともに、こうした問題を解決するための仕組み（積み木アプローチ）を検討**しました。



本日の進行

| 時間 | プログラム | 登壇 |
|-------------|---|---|
| 15:00-15:05 | 開会 | 内閣官房デジタル田園都市国家構想 実現会議事務局 原田参事官 |
| 15:05-15:10 | 趣旨説明 | 事務局 |
| 15:10-15:30 | モデル自治体の取組説明 | モデル事業参加 4市町 (神奈川県横須賀市、新潟県長岡市、滋賀県長浜市、 奈良県高取町) |
| 15:30-15:40 | 積み木アプローチの説明 | 事務局 |
| 15:40-16:45 | 座談会 「生涯活躍のまち」のはじめ方・取り組み方と <積み木アプローチ>の活用 | 司会：五十嵐智嘉子 北海道総合研究調査会理事長 モデル自治体：滋賀県長浜市、奈良県高取町 有識者：小泉秀樹 東京大学先端科学技術研究セン ター教授 領家誠 生駒市地域活力創生部長 事務局：内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会 議事務局 株式会社NTTデータ経営研究所 |
| 16:45-17:00 | 閉会 | 内閣官房デジタル田園都市国家構想 実現会議事務局 原田参事官 |

モデル自治体の取組説明

モデル自治体の取組事例

今年度、4つの地域において、「生涯活躍のまち」コミュニティづくりに取り組みました。それぞれの地域で異なる状況や課題に応じて、「課題発見」「事業構想」「資源確保」を工夫しながら検討を進めました。全国の「生涯活躍のまち」に組み組みたいと考えている地域の参考になるものと考えています。

| 地域 | ①神奈川県横須賀市 | ②新潟県長岡市川口地区 | ③滋賀県長浜市 | ④奈良県高取町 |
|----------------|---|--|---|---|
| 人口規模 (R2国調) | 388,078人 (対象とした鴨居地域は約 19,000人) | 4,087人 (長岡市全体は266,936人) | 113,636人 | 6,729人 |
| 検討主体 | 横須賀市福祉部地域福祉課 横須賀市浦賀行政センター | 長岡市地域振興戦略部 長岡市川口支所 川口エンジン古民家部（地域 団体） | 長浜市政策デザイン課、ふる さと移住交流室、人権施策推 進課、商工振興課 合同会社LOCO、えきまち株 式会社、長浜デザイン戦略室 | 高取町総合政策課 高取町シルバー人材センター |
| 課題 | 社会的に孤立しやすい対象者 像とニーズの把握 コミュニティ機能の現状と課 題、取り組む方策検討 | いつでも戻ってくることの出 来るまちの実現 | 時間的な制約等が課題となっ て「働きたいのに働く場がな い」女性等への仕事の提供を 核とした、事業所や市民の交 流を生み出す仕組みの構築 | 町内事業所等の人手不足、高 齢者や子育て中の女性等「働 く場」の需要 |
| 方向性 | <ul style="list-style-type: none"> 居場所・役割を見つけない人がコミュニティに参加する道筋をサポート コミュニティセンターを起点にした地域と協力した仕掛けづくり | <ul style="list-style-type: none"> 住民主体／公サポート型の地域共創ラボの設置 地域のしごととのマッチング、空きスペースの利活用を実証 | <ul style="list-style-type: none"> 市と民間企業が連携した短時間就労可能な場と仕組の構築 地元企業とリモートワーカーがつながる仕組み | <ul style="list-style-type: none"> シルバー人材センターや社会福祉協議会と連携した「しごとコンビニ」の構築 地域交流の核となる拠点の開設検討 |

積み木アプローチの説明 (別資料)

座談会

「生涯活躍のまち」のはじめ方・取り組み方 と〈積み木アプローチ〉の活用

- (1) テーマ1 : 個別事業の構想方法
- (2) テーマ2 : 庁内の巻き込み方
- (3) 質疑応答

登壇者プロフィール



進行：五十嵐 智嘉子 北海道総合研究調査会理事長

1984年、北海道をフィールドとして調査・研究を行うシンクタンク「一般社団法人北海道総合研究調査会」（略称HIT）に研究員として入会。以降、調査部長、常務理事、専務理事を経て2012年より現職。介護保険制度、高齢者ケアアセスメント等の推進に関する調査・研究、地域の社会的企業支援事業等に関する実践に携わり、近年は、生活困窮者自立支援制度や、人口減少社会に関する調査・研究等に取り組む。

『地方消滅 東京一極集中が招く人口急減』（2014年、中公新書、増田寛也編、第5章執筆）。14年8月から16年8月まで、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局に参事官として派遣。



有識者：小泉 秀樹 東京大学先端科学技術研究センター教授

1993年東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程修了、博士（工学）。東京理科大学理工学部建築学科助手、東京大学工学部都市工学科講師、同助教授、同准教授、同教授を経て2016年より現職。

共著に『コミュニティデザイン学：その仕組みづくりから考える』（東京大学出版会）、『東日本大震災 復興まちづくり最前線』（学芸出版社）、『まちづくり百科事典』（丸善）、『持続可能性を求めて』（日本経済評論社）、『スマートグロス』など多数。

2003年都市住宅学会賞（著作）、2005年日本環境共生学会 環境共生学術賞、2012年都市住宅学会業績賞、グッドデザイン賞などを受賞。



領家 誠 生駒市地域活力創生部長

1987年、大阪府に入庁し、介護保険準備室、ものづくり支援課、健康推進室などで勤務。同府では、介護保険や福祉有償運送の制度導入、大阪発のコミュニティ・ソーシャル・ワーカー機能配置促進事業、健康マイレージ事業「アスマイル」などの創設を担当し、ものづくり支援拠点「MOBIO」開設、「EGおおさか」なども主宰。自治体の外では、関西ネットワークシステム世話人、JICA等の専門家としてベトナムでのものづくり人材育成事業などの社会活動に取り組む。2020年に生駒市へ転職。地域活力創生部部長を務めている。地方公務員が本当にすごい！と思う地方公務員アワード2018受賞。著書に「町工場からアジアのグローバル企業へ」（中央経済社・共著）など。

閉会挨拶

今後の取組方針のご案内

内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局

原田参事官